

保健所広報活動の新たな展開 ～感染症予防の効果的な普及啓発を中心に～

北多摩北部保健医療圏

実施年度	開始 令和元年度 終了（予定） 令和2年度
背景	<ul style="list-style-type: none"> 多摩小平保健所においては、ホームページ、FMラジオ、健康情報誌、所内企画展示等による広報活動を実施しているが、適時・適切な情報を市民に分かりやすく、かつ効果的に発信していく必要がある。 毎年、秋から冬にかけ、季節性インフルエンザや感染性胃腸炎の集団感染事例が発生している。発生時には、施設、保健所、市等が連携し、迅速な初動調査や二次感染防止策に努めてはいるが、何よりも、感染症にかからない、平常時からの感染予防とそのため基盤整備が重要である。施設職員等への研修だけでなく、市民一人一人が、基本的な予防対策を行えるよう普及啓発を継続的に行うことが必要である。
目標	<p>【基本的な考え方、目指す方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 所内の広報手段・普及啓発媒体等を集約し、内容を検証。各課の連携による広報活動を展開し、相乗効果を狙う。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> 当所における広報活動をより効果的に展開するため、専門家の助言を得て検証し改善を図る。 当所オリジナルキャラクター「あらうさぎ」「ますくま」を活用した普及啓発を強化し、認知度を高めることにより、手洗いや咳エチケット等、感染症予防策への関心を高める。 正しい手洗いや咳エチケットの情報を提供し、市民が基本的な感染症予防対策を実践できることを目指す。
事業内容	<p>【広報活動の検証、改善】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 広報やITに造詣の深い専門家との広報媒体に関する意見交換・助言 ② 新たな広報活動の展開（保健所ホームページ、オリジナルキャラクターの活用等） ③ 新たな取組の評価と効果検証 <p>【感染症予防の普及啓発】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 圏域各市等が開催するイベント等に効果的な広報資材（着ぐるみや手洗い教材）の貸出しや出展を行い、手洗い、咳エチケットのキャンペーンを展開。各市のキャラクター等とのコラボレーションなどで「あらうさぎ」「ますくま」をPR ② 感染予防策に関する基本的な知識を記載したリーフレットや普及啓発グッズ（マスク、ウェットティッシュ、マグネット、子供向けシールなど）の作成・配布 ③ 手洗い、咳エチケットのPRソングの作成
評価	<p>所内の広報・普及啓発資料を集約し、所内研修において担当職員自らが内容を点検し、改善につなげることができた。</p> <p>感染症予防の普及啓発については、「あらうさぎ」「ますくま」の着ぐるみを活用したPR活動を展開し、幅広い年齢層の市民に喜んでいただいた。普及啓発グッズに印刷したQRコードや、ホームページのリンク設定を工夫することにより、インフルエンザ予防のページのアクセス数が上昇するなど、一定の効果があつた。</p> <p>今後は新型コロナウイルス感染症への対応や、感染症対策以外の分野でもオリジナルキャラクターを積極的に活用するなど、引き続き効果的な広報活動を展開していく必要がある。</p>
問合せ先	<p>多摩小平保健所 企画調整課 企画調整担当</p> <p>電話 042-450-3111</p> <p>ファクシミリ 042-450-3261</p> <p>E-mail S0000351@section.metro.tokyo.jp</p>

保健所広報活動の新たな展開 ～感染症予防の効果的な普及啓発を中心に～

1 事業背景

多摩小平保健所においては、ホームページ、FMラジオ、健康情報誌、所内企画展示等、様々な媒体による広報活動を実施しているが、適時・適切な情報を市民に分かりやすく、かつ効果的に発信していく必要がある。

また、毎年、秋から冬にかけて、季節性インフルエンザや感染性胃腸炎の集団感染事例が発生している。発生時には、施設、保健所、市等が連携し、迅速な初動調査や二次感染防止策に努めてはいるが、何よりも、感染症にかからない、平常時からの感染予防とそのため基盤整備が重要である。施設職員等への研修だけでなく、市民一人一人が、基本的な予防対策を行えるよう普及啓発を継続的に行うことが必要である。

2 事業目標

【基本的な考え方、目指す方向性】

- ・ 所内の広報手段・普及啓発媒体等を集約し、内容を検証。各課の連携による広報活動を展開し、相乗効果を狙う。
- ・ 当所における広報活動をより効果的に展開するため、専門家の助言を得て検証し改善を図る。
- ・ 当所オリジナルキャラクター「あらうさぎ」「ますくま」を活用した普及啓発を強化し、認知度を高めることにより、手洗いや咳エチケット等、感染症予防策への関心を高める。
- ・ 正しい手洗いや咳エチケットの情報を提供し、市民が基本的な感染症予防対策を実践できることを目指す。

3 事業内容

(1) 広報活動の検証、改善

ア 所内の広報手段、普及啓発媒体等の集約

所内の広報活動について検証するため、平成30年度に各課各担当で作成した広報・普及啓発資料を集約することとした。タイトル(件名)、媒体(紙/電子データ)、作成部数、配布先等の情報を一覧にまとめ、所内で情報共有した。集約した広報資料は、所内研修の題材として取り上げ、担当職員自らが点検・見直しを実施した。

また、平成30年度に関係機関等に送付した通知等の情報も集約し、件名、発送頻度、送付方法(郵送/電子メール)、送付先等の情報をまとめ、所内で情報共有した。関係機関等への通知発送時に、他課の情報も同時に提供するなど、各課連携による広報を実施した。

(例) 飲食店向け「受動喫煙防止対策リーフレット」送付の際に、感染症予防や食品表示法に関するリーフレットを同封

イ 広報活動に関する所内研修

広報活動をより効果的に展開するため、外部の専門家を講師に招き、研修を実施した。

【日 時】 令和元年9月26日(木曜日)午後2時から午後4時30分まで
【講 師】 株式会社キャンサーズキャン 代表取締役 福吉 潤 氏
【テーマ】 「伝えるために大切なたった一つのこと」

講師の福吉潤氏は、東京都がん検診受診率向上事業のアドバイザー等、都道府県や全国の国保連等における研修・講演等の実績が多数あり、幅広い知識・経験を基に講演して頂いた。講演は、講師と受講者が対話しながら進める双方向形式で行われ、

- ①受け手が知りたい情報とは、「困っていることを解決してくれる情報」である。
- ②受け手が何に困っているのかは、「聞いてみる」「想像してみる」「調べてみる」こと。
- ③情報提供の際は、ターゲットを絞り込み、従来の「薄く広く」の広報ではなく、重要な情報をピンポイントで提供すること。
- ④人の目をひくキャッチコピーが必要（“〇〇に大切なたった一つのこと”）

など、多くの「気づき」や「ヒント」を頂いた。

また、講演後のグループワークでは各担当が作成したチラシなどの広報資料を題材に点検・見直しを行い、実務に直結する実践的な内容であった。

ウ 研修後の取組事例（工夫・改善等）

研修後に作成した広報資料では、以下のような工夫や改善が見られた。

①あなたにおくる健康情報（市民向け健康情報誌）

- ・伝える情報量（文字数）をできるだけ少なくし、「見やすさ」「わかりやすさ」を重視
- ・タイトルやキャッチコピーを工夫

②感染症予防リーフレット・普及啓発グッズ

- ・オリジナルキャラクター「ますくま」「あらうさぎ」を活用
- ・統一感のある色使いとデザイン
- ・QRコードを入れて、保健所ホームページへのアクセスを誘導

（2）感染症予防の普及啓発

ア 着ぐるみを活用したPR活動

当所オリジナルキャラクターである「あらうさぎ」と「ますくま」の着ぐるみを製作し、キャラクターの認知度を高めるとともに、手洗いや咳エチケットなど感染症予防の普及啓発に活用することとした。

圏域各市が開催する「市民まつり」等のイベントで、着ぐるみと一緒に普及啓発のチラシやグッズを配布し、PR活動を展開した。着ぐるみは、子供からお年寄りまで、幅広い年齢層の方々に喜んでいただいた。

イ 感染症予防に関するリーフレット、普及啓発グッズの作成

感染症予防に関するリーフレットやグッズには、「あらうさぎ」と「ますくま」を印刷し、親しみやすく、手に取ってみてもらえるように工夫した。統一感のある色使いやデザイン、QRコードによるホームページへのアクセスを誘導するなどの工夫も取り入れた。

リーフレットやグッズは、圏域各市の健康主管課に協力を依頼し、健康センターや各種健診等でも配布した。

<着ぐるみを活用したPR活動>

活動日	イベント名称	活動キャラクター
10月20日(日曜日)	きよせ市民まつり	あらうさぎ
10月29日(火曜日)	歯ッピー大会 イン 東久留米	ますくま
11月9日(土曜日)	東村山市民健康のつどい	ますくま
12月14日(土曜日) ～15日(日曜日)	小平市みんなの健康展(※1)	ますくま
1月27日(月曜日)	健康づくり推進員等交流会(※2)	ますくま

(※1) 小平市へ着ぐるみ貸し出し (※2) 東村山市民ステーション「サンパルネ」で開催



きよせ市民まつりの様子

(ケンコウデスカマンとのコラボも実現!)

東村山市民健康のつどいの様子

北多摩北部

<今回作成した普及啓発グッズ>





マグネット (あらうさぎ)

マグネット (ますくま)

インフルエンザ予防のために
「咳がでるけれど、マスクはしたくない!」というあなたへ

なぜ、咳がでるときにマスクをしなくてはいけないの?
●咳やくしゃみをした時に飛び散る飛沫には、ウイルスや菌が含まれている可能性があります。
●周囲にいる人たちが、そのウイルスや菌を吸い込まないようにするために「咳エチケット」が必要です。



咳エチケットとは
●マスクをつける
●口や鼻をひじや袖口で覆う
●口や鼻をティッシュやハンカチで覆う

周囲の人を感染症から守るため
ますくまと一緒に
咳エチケット

マスクをつける時は…
●取扱説明書をよく読み、正しくつけましょう。
●鼻からあごまで覆い、すき間が無いようにつけましょう。

多摩小平 インフルエンザ予防 Q検索



手洗いは感染症予防の基本です!!

「手洗いなんて面倒くさい!」と思っているあなたへ

なぜ、汚れてもいないのに手洗いしなくちゃいけないの?
●日常生活の中では気づかないうちに、菌やウイルスが手についている可能性があります。菌やウイルスは目には見えません。
●手についた菌やウイルスが、口や目などから、からだの中に入り、自分自身が感染症にかかってしまわないようにするために、こまめに手洗いをする必要があります。



手洗いのタイミング
目に見えるよごれが無くても
●食事の前
●トイレのあと
●外出から戻り室内に入ったとき
●調理をする方は、調理前…などに手を洗いましょう

効果的な手洗いのポイント
●流水と石けんでもみ洗いとすすぎを繰り返すと効果的(30秒×2回)
●「指先」や「爪の間」「手のしわ」は洗い残しが多いので、注意して洗いましょう
●効果的な手洗い方法を動画で確認!
東京動画「めざせ!手洗いマスター あらうさぎといっしょに手をあらおう!」



自分自身を感染症から守るため
あらうさぎといっしょに
手洗い習慣!

東京都多摩小平保健所 TEL 042 (450) 3111



表
(裏)

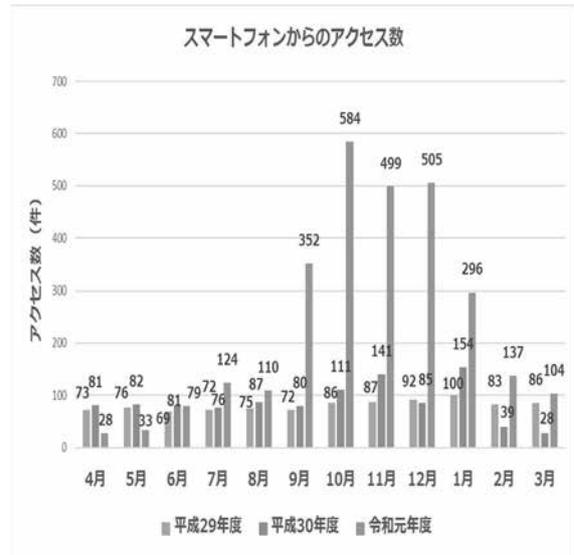
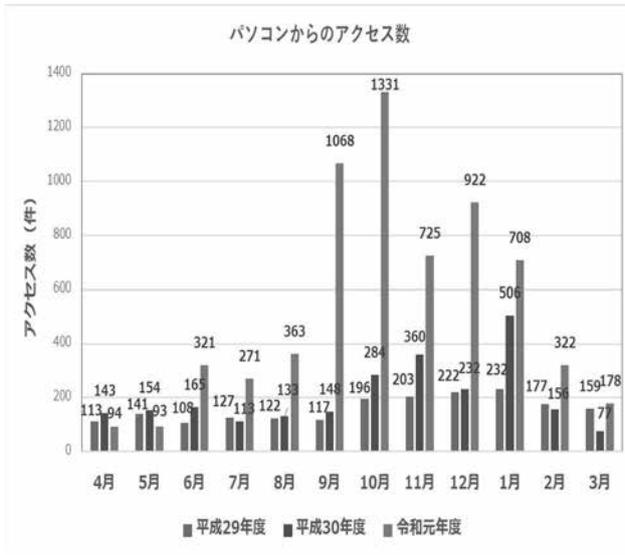
普及啓発チラシ

裏
(表)

(3) 保健所ホームページのアクセス数

令和元年9月に、圏域内の公立中学校で今季都内初の学級閉鎖があったことから、インフルエンザ予防のページへのアクセス数は、平成30年度に比べて大幅増となっている。インフルエンザの流行が落ち着いてからも、アクセス件数は多いことから、キャラクター(着ぐるみ)の活用やホームページのリンク設定による工夫も、一定の効果があったと考えられる。

<「インフルエンザを予防するために」のページへのアクセス数>



4 今後の取組（令和2年度以降）

所内の広報・普及啓発資料を集約し情報を共有したことで、所内連携による広報活動の展開に先鞭をつけることができた。また、所内研修において、担当職員自らが広報資料の内容を点検、改善したことで、定型化していた広報活動改善への意識付けにもなった。

感染症予防の普及啓発では、オリジナルキャラクターの着ぐるみの製作・活用という新たな試みにより、一定の成果を上げることができた。令和2年1月からの新型コロナウイルス感染症の影響により、残念ながら圏域市民への直接的なPR活動は中断せざるを得ない状況ではあるが、今後は、ホームページや動画による広報を充実するなど、コロナ禍における広報について検討を行い、取組を進めていく。

さらに、感染症対策以外の分野でもオリジナルキャラクターを積極的に活用するなど、引き続き効果的な広報活動を展開していく。

